

木原町

干天に「雨タンモレ」

大和三山・耳成山の南西ふもとに広がる木原町は、東の山之坊町と西の北八木町に挟まれた位置にあります。

耳成山の東中腹に鎮座する「耳成山口神社」は、古くから木原・新賀・北八木・石原・田・常盤・葛本・山之坊の各町がともに祭った氏神さまです。かつて近隣の村々に日照りが続くと村人たちは、神主さんを先頭に「雨タンモレタンモレ」と同神社へもうで、雨を降らしてほしいと祈ったそうです。

南北朝期の貞和三（一三四七）年に初めて、南都・興福寺の領地「木原」が古文書に登場します。その後も興福寺関係の領地として繁栄を続けたようで、室町後期の長享元（一四八七）年ごろに麴（こうじ）の商人組合・木原座も当地にあった（寺社雑事記）といえます。「木原村」と呼ばれた江戸時代には、郡山藩領だった一時期（約五〇年間）を除いてずっと幕府領として過ごします。

明治二二年に耳成村大字となつて昭和を迎え、同三一年一〇月に「橿原市木原町」となりました。同四三年、耳成山が「歴史的風土特別保存地区」に指定されます。

その前年、同地にあった古池を生かして市民憩いの「耳成山公園」が造られています。